

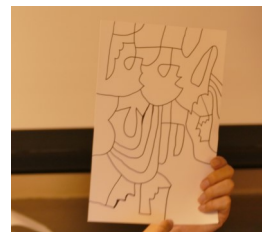
職員研修
有志指導者研修
要請研修

人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（中部地区）

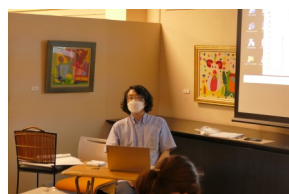
中部教育事務所管内各市町の生涯学習関係職員、公民館・地区センター、地域づくり関係職員を対象に、障がい者の生涯学習推進に向け、障がいや障がい者理解を深めることを目的に実施しました。

【演習】 「美術館の作家さんと出会う！」～障がいのある作家さんとのであい授業～

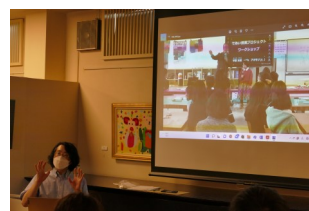
研修講座の前半は『であい授業』。授業者は、るんびにい美術館アーティストの小林覚さんと同美術館アートディレクター板垣崇志さん。であい授業の中核となるテーマは、講師という「人」そのもの。講師の歴史（時間）、家族をはじめとする様々な人たちとの絆（関係）、講師の思いや記憶（心）について、板垣さんが問いかけをして、小林さんがそれに答えるという形で行われました。終始、温かい雰囲気に包まれ授業は進みましたが、途中、小林さんの書く独特の文字（通称「さとの文字」）で参加者の名前を書くという場面もあり、間近で見た参加者はアーティスト小林覚の迫力を肌で感じる事ができました。参加者からは「障がい者の皆さんがどういった生活・仕事をしているのか、今まで全く知らなかった」「生の声を聞くことができて良かった」といった声が寄せられました。



【講義】 「社会で共に学び、生きるということ」～るんびにい美術館の取り組みから～



後半は、「社会で共に学び、生きるということ」をテーマに板垣さんから講義していただきました。るんびにい美術館の取り組みに関する事例の他、県外でも行われている『であい授業』の事例についても話がありました。「排除と攻撃は敬意の不足によっておこるもの」「障がいを知るのではなく、その人を知ること」「『であい授業』が育もうとするものは、あらゆる他者への敬意である」などといった言葉から、気づかされる事が数多くありました。参加者からは「普段、何となくやっていること、知ったつもりになっていることを改めて学び直したい」といった声が寄せられました。中には、「このような活動をされている方のアピールをもっとしてほしい。市民の意識を変えてほしい」といった声も聞かれました。



《受講者の声》

- ・障がいを抱えている方の生のお話を聞いたことが良かった。
- ・どの子にも、どの人にも伸びる芽があると改めて思った。
- ・地域で自分ができることを考え、取り組みたいと思った。
- ・これまで「身体障がいの視点」や「スポーツの視点」についての研修が多かったが、今回「知的」「文化」という、これまでにない視点のもので、大変勉強になった。

《受講者の評価》

A(有意義)	100%
B(どちらかといえば有意義)	0%
C(どちらかといえば有意義でない)	0%
D(有意義でない)	0%

《担当者（齋藤から）》

「あらゆる他者を敬う気持ち」。共に学ぶこと・共に生きることすべてはここからスタートするのだと強く感じました。多様な存在や考えを認め合える社会づくりに向けて、たくさんの出会い、様々な考え方に触れる機会を少しでも多く提供できればと思います。